



鹿田小だより



元気がいい 勉強こつこつ 親切ハートの
岡山市立鹿田小学校



令和2年度 第16号 1月7日

令和3年 明けましておめでとうございます！



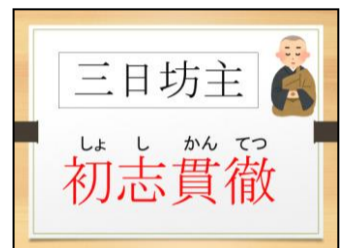
今年も元気に登校してくる子どもたちの、「明けましておめでとうございます！」という素敵なあいさつで3学期が始まりました。今年が丑年です。「丑」という漢字は「指を伸ばして物をつかもうとしている様子」を表しているそうです。「うし」という音から、動物の「牛」の字があてられました。牛は昔から農作業や物を運ぶときの労働力としても、人間の生活に欠かせない動物でした。勤勉によく働く姿が「誠実さ」を象徴し、身近にいる縁起のよい動物として十二支に加えられたようです。十二支の動物の中で最も動きが緩慢で歩みの遅い丑(牛)の年は、先を急がず一步一步着実に物事を進めることが大切な年とされています。丑の年は、黙々と目の前の自分の仕事をこなすことが将来の成功につながる、と考えるとよいようですね。

今年1年間が、皆様方にとって素晴らしい年となりますよう、また新型コロナウイルスが1日も早く終息しますようお祈りいたします。1月6日(水)の3学期始業式(テレビ放送で実施)では、子どもたちに次のような話をしました。

鹿田小学校の児童のみなさん、明けましておめでとうございます。「明けましておめでとうございます」というのは年の初めにするあいさつの言葉ですね。ではみなさんは「明けましておめでとうございます」という言葉の本当の意味を知っていますか？「新しい年が無事に明けて、よかったですね。おめでとうございます」という意味だと思っている人が多いと思います。校長先生もそう思っていました。でも本当の意味はそうではありません。昔はお正月を国民全員の誕生日と決めていて、元旦には国民全員が一斉に年を一つとっていました。「明けましておめでとう」の本来の意味は、「お誕生日おめでとう」ということだったのだそうです。面白いですね。

(中略)

2学期の終業式に、冬休みの間に今年1年間の目標を考えておいてほしいというお願いをしました。あなたはどんな目標を立てましたか？みんなそれぞれに違った目標だと思いますが、今日から始まる3学期、そして今年1年間、自分の目標の達成に向けて努力してほしいと思います。飽きっぽくて、何をやっても長続きしない人のことを「三日坊主」と言いますね。お坊さんになろうと決めたのだけれど、修行が厳しくて三日でやめてしまったというお話からできた言葉なのだそうです。皆さんはどうですか？いろいろと目標を立てても、なかなか長続きしない、そんなことはないですか？そこで、「初志貫徹」。最初に決めたことを最後までやり通すこと、という意味です。1年の初めにやろうと決めたことを途中で投げ出さないで、最後までこつこつ続けて、目標を達成してほしいと思います。初志貫徹です。覚えておいてください。



3学期に頑張してほしいことは、他にもあります。靴そろえは100点を目指しましょう。あいさつリーダーチャレンジで気持ちのよいあいさつでいっぱい鹿田学区、鹿田小学校にしましょう。給食を完食して、残量ゼロを目指しましょう。そして忘れてはいけないのがKKTM。特にマスクをつけることをしっかり守ってくださいね。また、3学期は卒業や進級に向けて頑張る学期でもあります。1年生から5年生までの人は次の学年に向けて準備をしましょう。6年生の人は、いよいよ卒業です。6年間のまとめと中学校に向けての準備をしましょう。

～ 保護者の皆様、地域の皆様、今年もどうぞよろしく願いいたします。～

先生たちの抱負

今年も、鹿田小学校の先生の「今年の抱負」

を

昇降口に掲示しています。自分自身のこと、家族のこと、子どもたちのこと、仕事のこと、趣味のことなど様々ですが、新型コロナウイルス感染症のこともあって、一番多いのは、やはり「健康」に関するものでした。ちなみに、校長は「ベストを尽くす」、高岡教頭は「(今年こそ)断捨離」、西村教頭は「感謝の気持ちで過ごす」、教務の松村は「質実剛健」でした。1月末まで掲示しています。来校されることがあれば、ぜひご覧ください。

※「断捨離」：物への執着を捨て、不要なものを捨てることで生活の向上を図ること。

※「質実剛健」：飾り気がなく真面目で、肉体的にも精神的にも清らかで強くたくましいこと。



学校長のつぶやき ～子どもと過ごす時間～



数年前のことですが、あるテレビ番組で「親と一緒に過ごせる残り時間は？」というクイズがありました。自分や親の年齢によっても違うとは思いますが、みなさんはあとのくらい自分の親と一緒に過ごせると思われませんか？その番組では、親と離れて暮らしている場合を例に挙げて説明をしていました。親と離れて生活をしている人が親と会うのはお盆や正月など、1年間に平均6日くらいだそうです。その1日の中で親と顔を合わせるのが平均約4時間と考えて計算すると、1年間で約24時間、たった24時間です。

その番組では反対に、「親から見た子どもと一緒に過ごせる時間(睡眠、学校や仕事に行っている時間などを除いた時間)」についても説明がありました。親が我が子と一緒に過ごせる時間の平均は、一生のうち母親が約7年6か月、父親が約3年4か月だそうです。意外と短いんですね。また、一緒に過ごせる時間の全体を100%として、子どもの成長とともにどのくらい過ぎていくかを見ていくと、幼稚園に入園したときには全体の18%、幼稚園を卒園したころには32%、小学校卒業時にはなんと55%が過ぎてしまっているそうです。(6年生の保護者の方は、残り半分弱しかありません。)

私には子どもが4人いますが、全員成人しています。あとのくらい自分の時間を我が子と過ごすことができるのだろうか？と考えると、「小学生の頃にもっと一緒に時間を過ごせばよかったな。」と後悔しています。保護者のみなさんは今子育ての真っ只中。夏休みなどには「ごはんを作るのが大変。どこかに連れて行けと言うし、学校に行ってくれていた方がいいわ。」という声も聞きますが、お子様と過ごす時間は今しかありません。決して取り戻すことのできない貴重な時間です。お子様と過ごす時間を大切にしてください。

